



特集 2010年度支援実践集



就労移行支援を経て就労スタート！
(ナチュラルローソン芝浦海岸通店にて)
世田谷区立烏山福祉作業所

トピック 幼い命

大坂市内のマンションで、母親の育児放棄により幼い姉弟が餓死するという衝撃的な事件から1年。なおも虐待により幼い命が奪われる事件が続いています。この8月には都内で、1年前の幼児の死亡に関し、あるうことか、その里親となっていた女性が逮捕されました。

現代の虐待の多くには、生活の困窮や、地域機能の衰退と核家族化の中での家族、特に母親の孤立、ステップファミリーと呼ばれる、離婚・再婚などによる血縁関係のない親子関係の増加などが背景としてあると言われています。

このため、周産期や子育て中の母親の孤立防止につながる施策の充実などが図られるとともに、虐待を受けている恐れのある児童について児童相談所などによる24時間対応・48時間以内の安否確認体制が構築され、民法改正による親権の一時停止も実現しました。養育里親については、大多数の里親は戸惑い、悩みながらも深い愛情を持って適切に養育に当たっており、家庭的環境での養育というこの制度は、社会的養護の方向性として今後とも推進されると思います。

ただ、これらの施策の充実と併せて、根源的な課題として重要なのは、便利にはなったがストレスを抱え込む人も多くなった現代の日本社会の病理や、生まれた子どもの間引きや子どもの身売りなど、必ずしも子どもが大切にされて来なかった面もある日本社会の歴史についても直視して、そこから真の解決策を探ることであると考えます。

「すべての人の尊厳を護る」という社会福祉施設の仕事を通して人の尊厳や命の大切さを社会に訴え続け、それが時間は要しても社会を変え、ひいては子ども達への虐待のない社会をつくる一助になることを念願しています。

社会福祉法人武蔵野会理事長 上野 純宏

特集 2010年度支援実践集

2010年度版の支援実践報告(23施設から全27編)のほとんどは、大震災が発生する前に書かれたものでしたが、利用者の方々の今の生活や人生をより良いものにしたという意欲に溢れた取り組みばかりでした。多くの方々の生命をお預かりしている社会福祉施設として、どのような災害が生じようとも人命を守り抜く体制を早急に構築するとともに、今後とも一層、このような支援実践を充実させていく必要があります。

今回、最優秀作の「通所施設における防災対策」は多くの施設で活用されることを期待して「具体的な取り組み(平成19年4月から平成22年12月)」の部分を抜粋して掲載致します。



利用者主体の防災活動を目指して

八王子生活実習所

(1) 利用者負担の少ない

避難方法の開発

①利用者主体の避難訓練へ
利用者負担の少ない避難方法の開発とは「利用者が嫌悪しない避難訓練プログラムの開発である」と考えた。また、利用者主体の訓練とは「避難訓練が怖く、参加出来ない利用者がいないこと」「一人として建物の中に取り残されず、みんなが避難できること」をまず一番とし、避難訓練に不安感や恐怖感のある利用者

に変更することから開始した。

まず、避難誘導に伴う不安感を解消するため、不安感や恐怖感を煽る言葉かけや防災設備の音響等を使用しないことから開始した。当初、防災音響を使用しないことについては議論があったが、時間をかけて通常の避難体制に近づけていくこと、そのためのステップバイステップ方式で避難訓練のプログラムを開発していくこととした。

者に合わせられるような訓練の内容

ではなく「赤ずきんちゃん記念撮影

選考結果

＜最優秀：1編＞	八王子生活実習所
・利用者主体の防災活動を目指して	
＜優秀：4編＞	さくら学園
・末期ガンのBさんへの支援を通して ～施設でのターミナルケアの模索～	
・累犯障害者の自立に向けた支援 ～社会性の確立と自己成長に向けて～	大島恵の園
・生活支援センターすてっぷの利用を通じて 在宅の知的障害者の社会参加を支援した取り組み	
・地域支援～融合施設の取り組み～	すぎな愛育園

大会」と名前を変えて訓練を行うこと

にした。

一切ベルなどは鳴らさず、防災頭巾を赤頭巾にし、園庭の避難は記念撮影ということにして、園庭に避難して頂いた。

また、職員の火災時の誘導や初期消火の指示は、館内放送と内線電話を使うが共通のサインを決めて、直接的な表現をとらないものとした。このことよって今まで参加できなかった利用者が安心して参加できるようになった。

一例をあげると、Sさんは障害程度区分が6の女性である。雷やサイレン、地震・火事という言葉に自動的に反応してパニック状態になった。平成19年度当初は、この点に関して腫れものを触るような状態であった。防災訓練がある日は欠席や早退をしてもらい、避難訓練を利用者に合わせるのではなく、訓練に合わせた利用者を訓練から外すことが常態であった。

今では、利用者主体の訓練を目指した結果、現在では避難訓練に参加し、園庭に避難することが出来るようになった。利用者は「赤ずきんちゃん記念撮影大会」と思い、防災頭巾を被って園庭に抵抗なくむしろ積極的に移動することが出来るように

改め、一律一斉の避難誘導が重

度障害者に恐怖心を植え付ける体験となってしまう、避難誘導の働きかけが利用者の忌避感や抵抗感を助長してきたことを反省した。

こうして、東京都から民間に移譲して初めて利用者が全員参加の避難訓練のベースが出来た。ベースが出来たところで避難訓練の質をあげていく必要があった。月に一度ではあるが「赤ずきんちゃん記念撮影大会」だけでは利用者に飽きが来てしまふと考えた。避難訓練に興味関心が無くなってしまつては意味がない。当初は定期的に園庭へ速やかに避難できる集団の形成を目指したので、園庭に出ることの動機づけを重視した。「赤ずきんちゃん記念撮影大会」だけでなく、内容を変えて避難訓練をイベント化して利用者の関心を喚起させた。

具体的には、宝探しゲームや季節感を取り入れてハロウィンの仮装パーティーやクリスマスツリーの飾り付けなどを園庭で行うことを目的に園庭に集合するということを意識化させる取り組みを3年間かけて続けた。

② 職員の意識改革と

防災カード作成へ

次に、避難訓練のベースを作ることはできたが、職員の大震災などに対する意識が低かったため、意識向上に努めた。防災研修に参加する事業所は比較的意識が高いが、万が一の大震災対策はどうしても意識が散漫になってしまう。原因は具体的なイメージが湧かないことによる。どこか自分たちには関係無いと言ったような雰囲気や当園にもあった。

職員全員の防災意識のアセスメントを行ったところ、防災設備や器具の使い方、火災時の避難経路等についてかなり曖昧な組織レベルにあることが判明した。毎月の避難訓練以外に毎月、定期的に防災器具の使い方や避難経路の確認を行い、意識向上に努めた。

あたりまえのことではあるが、成果として、当園の職員は中央警報版の取扱いに習熟しており、消火栓、避難誘導口等について非常動も合わせて全員が文字通り、周知徹底されている。このあたりまえの備えが大切であると考えている。

一方で、利用者一人一人に合わせた避難対応を検討し、個別支援計画にも少しずつ反映して記載する事に

むさしの 改正 障害者基本法

私がオルゴールを初めて手にしたのは、小学校に入る前、土産物店でなにげなく手にしたものでした。その澄んだ音色に強く心引かれました。オルゴールはシリンドアのピンを弾いて音を出しますが、箱や周りの音に共鳴して「音のゆらぎ」による耳にやさしい音色を醸し出します。オルゴールの生産は日本が80%以上と世界の市場を占めています。小樽市をはじめ、全国各地にオルゴール博物館が設置されているのも頷けます。

さて、今年6月に障害者虐待防止法の成立に続き、8月には改正障害者基本法が成立、公布・施行されました。

この障害者基本法は、障害者福祉施策の基本となる事項と国や地方自治体の責務を規定したもので、1970年の心身障害者対策基本法が基になっています。

改正により、障害の定義を広くし、「全ての障害者は社会、経済、文化等あらゆる分野の活動に参加する機会」が、「与えられる」か

ら「確保される」と改正され、同様に雇用の促進等も、事業主はこれまでの「雇用の場を与える」から「雇用の機会を確保する」と前向きな文に変わっています。

また、この度の震災の際、障害者に情報が伝わらなかったことから「防災及び防犯」と「消費者としての障害者保護」の条項を新たに加えています。

ただ、基本法の新旧対照表を見ると、改正法の条文に「可能な限りの機会が確保」など、「可能な限り」という文言が何カ所も出てきます。これでは可能でなければよしとすることになりはしないでしょうか。施行後3年後に見直しされることになっていますが、この部分は今後議論の的になることでしょうか。

さまざまな共鳴効果により、クリスタルでみんなにやさしく、こちらは「ゆるぎ」ない法律であって欲しいものです。

八王子福祉作業所

施設長 森 直貴

した。安心・安全をモットーにする福祉施設が利用者の個別支援を行う中で、この緊急時避難にどのように支援するかという個別視点は必要不可欠であると考えた。

特に、避難所では不特定多数の雑居状態となる。プライバシーも取りづらく、コミュニケーションの障害のある利用者がストレスを高ささせ不適応を起こすのは容易に想像できる。

特に当園で検討されたのは「防災カード」の作成である。被災すれば支援員は利用者と共に行動するが、例えば怪我による処置や入院等によって、利用者は少しづつ、利用者や職員の母集団から徐々に分散を余儀なくされる。また、支援員の手から行政や医療関係者、ボランティアに利用者を預ける場面が増加する、そ



「赤ずきんちゃん記念撮影大会」と名付けた避難訓練



園庭に集合すること(避難)をイベント化して実施

るようになっていく。また、体育館の裏口にも玄関が用意されている。体育館内にエレベーターなどは無いが、ここまでなら、利用者の方でも特に問題なく利用する事が出来る。

しかし、障害者にとって大きな問題が存在する。避難所は一つの空間に大勢の人達が密着して雑然と寝泊まりをする場所となる。その中に利用者が一緒に生活出来るのかという問題である。

利用者の障害特性や行動の問題(多動・奇声・自傷)のことを考えれば、避難所という空間は最も耐えられない場所である。特にトイレの順番待ちの問題など重度の利用者にはなかなか理解できない。集団生活はストレスを高じて著しい不適応症状を起こすことになる。

また、保護者も利用者との避難

の際、利用者についての個別的な対応の方法、コミュニケーション、健康状態や医療情報等の個別情報を支援員が的確に伝達することが、利用者の避難生活の質を維持することにつながる。口頭で丁寧に伝えきれない場面も想定されるため、必要最低限の内容をカードで伝達する工夫に取り掛かった。

まず、個人情報や前述の情報をカード化したものを保護者と共同開発していくこととした。現在、防災カードの雛型を完成した。この後、保護者と記載すべき個別情報について細部を協議し、平成23年度までに全員の防災カードを事業所とご家庭に備える予定で取り組んでいる。

(2)保護者との

災害時相互防災連絡体制の確立

①NTT災害伝言ダイヤル

(171)の活用

当園はドアツードアの送迎体制であり、大震災が発生した場合には、交通が遮断され、送迎が事業所側、保護者側双方において困難となる。この状態は地震発生から長時間にわたる可能性があり、一次の安否情報からさらに継続的な状況報告をどのように提供していくかという課題が挙がった。電話回線は集中し通話不

能の中、保護者との災害時相互防災連絡体制の確立を目指して、相互連絡の方法として、「NTT災害伝言ダイヤル」を選び、これを毎月1日に保護者と事業所側で相互に録音・再生して情報交換することを4年間続けている。

災害伝言ダイヤルは、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に、災害用緊急回線が開かれ、短い時間だが録音した伝言板を再生できるシステムである。これを当園では保護者全員が操作できるまで継続して訓練した。

②相互連絡伝言訓練へ順次拡大へ

また、2年前からはNTT災害伝言ダイヤルを相互に録音し、これを相互に聞き取り、翌日の連絡帳で確認するという双方向訓練に切り替えている。また、NTT以外の媒体にも拡大して訓練を始めている。

平成19年度から20年度は、当園が発信したメッセージを再生して頂く訓練を行った。保護者には、事前に再生方法の書いたマニュアルを渡し、保護者会で直接操作方法を教えた。毎月1日、正月以外は、土・日・祝日関係なく行い、保護者の方々に災害伝言サービスを文字通り身体に覚えこんで頂いた。

は、周囲の他人への気遣いや障害者理解のない住民からの遠慮のない声かけが掛けられることは容易に想像できる。実際に新潟中越沖地震の際は、避難所に迷惑がかかると退去した障害者家族や避難所に行かないで自家用車の中で家族と共に避難生活を送るケースがあった。

さらに、震災ケースを検討してみると、避難所に行ったが体調を崩して緊急入院し、退院後も発作を起こして再入院したケースや医療的ケアが必要なので自宅から離れられないケース、食べ物や生活リズムが崩れた例など枚挙にいとまがない。ストレスに対して脆弱な障害者であることを考えれば、障害者には特にこうしたストレス環境を配慮した避難空間が必要となる。実際に、「知的障害者の周りの理解に不安がある」、「避難所より施設を避難所にして頂いた方が助かる」などの障害者を持つ被災者の声が多く、結局、避難所として指定されていないにも関わらず、日常的に使用していた施設を避難所として利用するケースが少なからずあったという。

②非常時の宿泊機能の

強化に向けて

前述のことから当園では、保護者

保護者・利用者共に震災という辛い状況で、お互いの安否がしっかりと確認出来ているという安心感是非常に大切である。当園では、保護者に事業所に真っ先に駆けつけるのではなく、ご自宅や他の家族のご様子や状況を見極めて、落ち着いてから利用者を引き取りに来てほしいと話している。大震災規模の場合、お迎えでの二次被災に遭遇する可能性も高く、また、自宅に引き取ったが自宅の損傷がひどく避難場所を漂流する事例が確認されており、共倒れになる可能性もある。この訓練が保護者や利用者お互いの希望の架け橋になつてくれると信じ、これからも訓練を継続していく。また、安定した安否確認の方法を確立のために、さらにメールの一斉配信、衛星電話等について検討に入っている。

(3)避難所の見直し

①避難所機能のアセスメント

当園から一番近い避難所は道路を挟んで100m圏内の八王子市民体育館である。当園から体育館までの道のりは綺麗に整備されており、特に段差なども無い歩きやすい道となりとなっている。建物の門の前には階段があるが、車イス用のスロープもあり車イスの方でも体育館内に入れ

会との話し合いの中で当園の建物が著しく損傷していない場合は、当園から移動せず当園を拠点として避難をする、というシミュレーションに入った。

災害弱者である利用者にとって、一般住民と混在する避難所での生活は、一般住民以上にストレスが蓄積されるといふ問題点があることがわかったため、当園での「分散自立」を想定したもう一つのシミュレーション作成に入った。

つまり、災害避難場所に指定されていないが、大震災時に保護者と利用者の避難場所を積極的に当園にするという前提で大震災時の避難計画を検討していくことである。利用者・保護者にとって、あるいは事業所側にとってなじみの空間、使い慣れた空間での避難生活の方がよりストレスフリーであり、その上、拠点として機動力を発揮しやすい。全壊した場合は当初のように避難所への避難を余儀なくされるが可能な限り当園に留まる意義を考えたい。

そこで、事業所の宿泊機能を強化するための防災準備に順次取り掛かった。通所施設の宿泊機能の強化というテーマを設定し、防災研修に何度か足を運び、ライフラインの確保

の重要性を認識して、当初目標を「ライフラインの確保」と定めた。電気・ガス・水、トイレの確保であるが、水は受水槽で凌げると考え、ガス・電気の対策を早急の課題とした。停電になることは必定なので、プロパンボンベの常時設置とプロパン発電機2台を購入した。

一方で、食事では、非常食をいつもと違う状況で食べ物が喉を通りづらくなるので、お粥食等の嚥下しやすい形状のものに献立を変えた。特に火が制限されることから、水でも調理できるものにし、備蓄も3日分の9食に量を増やした。

また、健康管理面では、「防災カード」に薬の処方、アレルギー、血液型などの健康情報を定期的に更新して常備すると同時に、看護師に協力してもらい、利用者が服薬している薬を数日間ストックする体制に切り替えた。

そして、寝泊りに関して暖房が取れないので、サバイバルシートや防災毛布等を購入し、100人分常備した。さらに、宿泊機能を強化するために、マンホールトイレの購入設置や嚥下困難者用の非常食増量・緊急時用の自転車購入・防災カードの改訂などに取り組んでいく予定である。

ニユース ラウンジ

きくらげの

栽培開始

八王子福祉作業所

八王子福祉作業所では新たな授産種目として、8月にきくらげの栽培ハウスを設置しました。

日本で消費されているきくらげは、その98%以上が中華人民共和国から輸入された乾燥きくらげです。国産のきくらげは九州地方を中心に、ごくわずかしが生産



栽培ハウスの中で順調に育っています

されています。農業の心配もない、生のこりこりした食感のきくらげをお届けします。

きくらげは、鉄分、ビタミンD、カルシウム、食物繊維などが豊富に含まれ、古来から薬膳の素材でもあります。特にビタミンDは食物の中で一番多く含まれています。ビタミンDは、健康な骨や髪を作る働き、肥満防止、さらに癌の予防効果も分かっています。

樹脂サッシの栽培ハウスで育つ「生」のきくらげ、ぜひご賞味下さい。9月中旬ごろから販売を開始します。価格は100gで300円です。乾燥きくらげも順次販売いたします。

八王子福祉作業所
電話042(626)0631

避難施設への 職員派遣

東京都の依頼で、法人の職員を定期的に千葉県立鴨川青年の家へ介護職員派遣を行っています。同施設には福島原発の事故により福島県内の障害者(児)施設の6施設が避難しています。

派遣は一週間ずつに分けて行

い、例えば8月11日から7日間では、都内及び近郊の福祉施設から7名の支援員が派遣され、東洋学園児童部に3名と同学園成人部に4名と分かれて入りました。

児童部では、談話室での児童の見守り、食事介助、洗濯が主な支援内容です。洗濯物干しや洗濯物畳みを子どもたちと一緒に、談話室では元気いっぱいの子どもたちが学校の様子や将来の夢を話してくれませんが、やはり「住み慣れた福島に戻りたい」と話しに出ます。

参加職員にとって、被災された多くの障害を持つ方々のために、武蔵野会の一員として参加できてたいへん有意義な経験となっています。



都内の福祉施設から派遣された支援員たち

施設あれや これや

すきな愛育園

今年の夕涼み会は節電協力として名称を「夏祭り」に改め、模擬店内容も一部変更し、日中に開催しました。はっぴ姿の子どもたちが担ぐお神輿。気合の入った職員によるソーラン節は会場をより一層盛り上げてくれました。

練馬福祉園

喫茶店「陽だまり」はシフォンケーキを名物に、平日のみの営業をしてきました。今回保護者からの休日営業の要望にお応えして、6月から日曜営業を開始し、皆様に好評をいただいています。ご来店をお待ちしています。

小平福祉園

今年の夏祭りは節電の関係で日中に行いました。内容も被災地支援の募金を加えました。利用者の皆様は例年通りに模擬店での買い物や、新たに設けたゲーム体験コーナーを楽しんでいました。

烏山福祉作業所

遅ればせながら、ホームページを開設いたしました。リアルタイムで情報を発信していきたいと思っております。お暇な時でもアクセスし

ていただけたら幸いです。
また、ご意見ご感想を何よりも、工房a.s.i.のお菓子のご注文をお待ちしております。
<http://www.karasuyama-as.com/>

八王子市心身障害者福祉センター

法人でも取り組んでいる節電、室内温度28度での講習会は大変厳しいものがあります。それでも受講生はセンター準備の団扇を片手に懸命に頑張る、それぞれの障害を理解し地域へと巣立っていきます。電力情勢の中、当たり前とは思いつつ奉仕理念への志の強さに福祉の発展を感じています。

西水元あやめ園

節電対策として、2階・3階のベランダにゴーヤを植えました。蔓は日に日に伸び、程よい日陰と緑を提供してくれました。加えてゴーヤは見事に実を結び、天ぷらにして皆さんで美味しく食べるという「おまけ」まで付きました。

武蔵野児童学園

8月22日に第27回第六ブロック児童養護施設バレーボール大会が開催されました。決勝戦は取りつ取られつの大接戦でフルセットまで纏れて1点を争うゲームとなり、子どもたち、職員は声を嗄らしての応援に夢中になりました。1点差で勝ち、昨年に引き続き2連覇できました。

卒業制作作品 「ちづる」の劇場上映

今年4月から東堀切くすのき園の支援員になりました赤崎正和職員が大学の卒業制作作品として監督した映画「ちづる」が劇場公開されることになりました。この映画は自閉症と知的障害のある妹とその家族の日常を撮ったドキュメンタリー映画です。

本人は、友人や親しい人に障害のある妹のを知ってもらいために作りましたが、劇場公開が決まった今は、障害のある方、その家族・きょうだい、福祉や教育関係者など、多くの方に観てもらいたいと願っています。

赤崎職員自身、この映画を作ることで妹の障害と向き合うようになり、卒業後の進路も映像製作か



是非、劇場へお出かけください

福祉セミナー

「障害のある 当事者の語り」

八王子生活実習所

ら福祉の道へと変わりました。劇場公開は10月29日よりポレポレ東中野、横浜ニューテアトルにて同時上映、その後も全国順次ロードショーの予定です。詳細は公式HPをご覧ください。
<http://chizuru-movie.com>

八王子生活実習所では「当事者の語り」を聴く研修を地域公開の連続講演会として開催しています。6月の映画「1/4の奇跡」自主上映を皮切りに、7月には、身体障害、失語症等の重複障害がある画家・詩人の河村武明氏をお呼びして、お話しを聴きました。この福祉講座はさまざまな障害者の語りを聞いて、福祉や人権についてもう一度考えようという企画となっています。

この連続講座は、9月に元ハンセン病の森元美代治氏、11月に障害エイズの藤原良次氏、1月にデイスレクシア(識字障害)の南雲



<http://www.hachioji-seikatsu.com>

武蔵野会

健康相談ダイヤル スタート



武蔵野会では今年10月1日から「武蔵野会健康相談ダイヤル」をスタートさせます。内容は24時間の電話健康相談やメンタルヘルスのカウンセリングサービス及び、労務管理ホットラインサービスです。委託会社は（株）ティーペックで、情報は完全に守られます。体調の不調、子どもの急な病気やメンタルヘルスに関する事等、

健康に関して幅広く、いつでも無料で利用できます。また、職員だけでなく配偶者や被扶養者など家族で利用できます。医師68名、保健師、看護師、心理カウンセラー等248名のスタッフ、内容に応じて対応することになっています。

武蔵野会専用ダイヤルをご利用ください



武蔵野会専用ダイヤルをご利用ください

お知らせコーナー

- 10月**
- 1日 みのり祭 (練馬福祉園)
 - 2日 わたぼうし祭 (八王子生活実習所)
 - 15日 法人採用試験 (一次面接)
 - 16日 お茶亀まつり (白鳥福祉館)
 - 八王子市ふれあい運動会 (八王子福祉作業所、生活実習所 希望の里、身障センター)
 - 22日 どんどこ祭り (駒沢生活実習所)
 - 作業所まつり (北町福祉作業所)
 - 秋桜祭り (さくら学園)
 - 28~30日 あやめ祭 (西水元あやめ園)
 - 29日 法人採用試験 (二次面接)
 - ふれあいまつり (大泉町福祉園)
- 11月**
- 3日 大島町福祉まつり参加 (大島恵の園、第2大島恵の園)
 - Newわいわい祭 (世田谷福祉作業所)
 - 5日 ふじもり祭 (八王子福祉作業所)
 - 11日 施設公開 (大泉町福祉園)
 - 12日 成年後見制度講習会 (さくら学園)
- 12月**
- 1日 大島地区支援実践報告会 (大島恵の園、第2大島恵の園)
 - 3日 練馬区障害者フェスティバル参加 (大泉町福祉園、北町福祉作業所 練馬福祉園、光が丘福祉園、すてっぷ)



ハロウィンクッキー 300円



チーズケーキ 200円

世田谷福祉作業所では「ポヌール」という名前でお菓子の生産と販売を行っています。ポヌールの商品の中でも、大人気の商品二つをご紹介しますと思います。一つめはチーズケーキです。プレーンタイプのものとは別に様々な味のチーズケーキを期間限定で販売しています。初夏には爽やかなオレンジ味、秋の深まりに合わせてパンプキン味、寒い冬はほっこりするチョコレート味など。

ショーケース 自主生産品紹介 世田谷福祉作業所の巻

住所 〒154-0002 東京都世田谷区下馬2-31-34-101
電話 03-3414-0141



型抜きは上手にできます

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する23施設と4つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931
東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX 042-626-9772

食べていただくお客様の気持ちに寄り添った商品作りを心がけています。一つめは大好評のハロウィンクッキーです。直径13cmほどの大きなカボチャ型クッキーは愛嬌たっぷりで見ると人の笑顔を誘います。見た目だけでなく、カボチャの風味がしっかりと感じられるサクサクした食感の美味しいクッキーに仕上がっています。